

メディアリテラシーを身に付け、 自分の意見を豊かに表現できる生徒の育成 ～グループ新聞で伝える、学校・地域の魅力～

延岡市立土々呂中学校
教諭 片山 弘喜

1 テーマの設定について

インターネットの普及により、近年では新聞の購読者が減少していると報道されている。このことは学校においても例外ではなく、新聞購読をしていない家庭の増加や、新聞を読まない生徒が多くなっていることも事実である。確かにインターネットは便利であり、新聞を上回る豊富な量の中から必要な情報がすぐに手に入る。しかし、その全てが十分な信憑性をもっているとはいえない。

中学生は、メディアからもたらされる情報を鵜呑みにしがちである。特にテレビやインターネットの情報を無抵抗に受け入れてしまう傾向がある。そこで、「新聞」を使い、その情報を受け止め、自主的な判断を加えて意見を述べる必要があると考えた。

2 本校の概要

本校は全校生徒が542名の比較的大きな規模の学校である。延岡市の南部に位置し、広い校区の中に豊かな自然をもっている。平成22年度よりNIE実践校の指定を受けている。学校では独自の新聞購読を行っているが、教材として用いられることは少ない。延岡市では宮崎県支部新聞公正取引協議会より「すべての教室に新聞を」運動が実施され、毎日、各教室に1部の新聞が配達されている。教室に新聞があることに違和感を感じている生徒は少ないが、積極的に新聞を読もうとする生徒は少ない。

NIE実践校による新聞購読は9月から始めた。「すべての教室に新聞を」運動による配達も考慮し、以下の通りに新聞購読を行った。

- 毎日新聞・・・9月～12月
- 日本経済新聞・・・9月～12月

- 宮崎日日新聞・・・9月～12月
- 朝日新聞・・・12月～3月
- 読売新聞・・・12月～3月
- 西日本新聞・・・12月～3月

3 実践内容

生徒のメディアリテラシーや表現力を高めるために、次の実践に取り組んだ。

- (1) NIEオリエンテーション
- (2) 新聞作成
 - ① 職場体験学習のまとめとしての新聞作成
 - ② グループ新聞の作成
- (3) 宮崎日日新聞社佐土原センター見学

以上の内容について、主に第3学年の生徒を対象に取り組んだ。

4 取組の実際

- (1) NIEオリエンテーション

本校は、これまでに新聞を積極的に活用した



資料1：NIEオリエンテーションの記事
(宮崎日日新聞、平成22年7月16日付 16面)

取組を行っておらず、生徒に対するオリエンテーションが必要だと考えた。そこで、県NIE推進協議会に依頼し、宮崎日日新聞社より小川清一郎氏を講師に招き、第3学年の生徒（165名）を対象にNIEオリエンテーションを行った（資料1）。同社より新聞の提供があり、新聞記者としての仕事や紙面の構成など、様々な内容で講話をしていただいた。

対象生徒数が多く、新聞への関心も様々であったため、効果的であったか疑問が残る。しかし、オリエンテーションが新聞に興味をもつきっかけになった生徒も多数いた。

(2) 新聞作成

① 職場体験学習のまとめとしての新聞作成

これまでに行っていたグループ新聞作成を本校でも行うことを検討していた。しかし、グループ新聞作成は対象生徒数が少ないため、規模の大きな学校で多くの生徒が取り組むことのできることを考えた。

第3学年の生徒は、総合的な学習の時間で職場体験学習に取り組んでいる。学習後のまとめとして4時間を設定し、新聞作成を行った（資料2）。活動の流れは次の通りである。



資料2：生徒による新聞の例

- ア 新聞作成に関する説明を聞く。
- イ 班で記事の分担をする。
- ウ 記事や挿入するイラストを作成する。
- エ 見出しを検討する。
- オ 原稿用紙に記事を書く。
- カ 原稿用紙を貼り合わせる。
- キ 貼り合わせた物をコピーして完成。

活動の始めにすべての生徒に対して紙面の構成を提示し、原稿用紙を切って取り組ませた。新聞に関心が高い生徒は活動をスムーズに行うことができていたが、リードの書き方を間違えたり、見出しをうまく付けることができなかつたりと新聞作成がうまくいかず、指導に時間がかかった。できあがった新聞は学年のフロアに掲示した。比較的簡単に新聞を作ることができたことに驚く生徒が多くいた。

この活動は、新聞購読の前に行った。NIEオリエンテーションも含め、生徒の新聞に対する興味を高めるために効果的な活動であったと考える。

② グループ新聞作成

昨年度、前任校で行ったグループ新聞作成を本校でも取り組めないか検討をしたところ、文化祭の準備として確保されている総合的な学習の時間が活用できた（資料3～7）。活動する生徒も十分に集めることができ、前任校とほぼ同じ流れでグループ新聞作成を行った。

ア 目的

活動の前に、生徒に次の目的を説明した。

- ・学習したことを形に残すこと
 - ・壁新聞やプレゼンテーション以外の表現方法を学ぶこと
 - ・「ことば」を使って表現すること
- 以上の3点を確認し、活動を始めた。

イ 活動の流れ

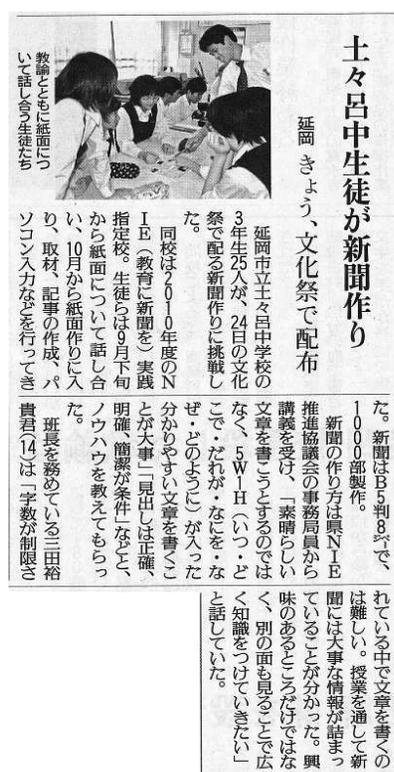
グループ新聞作成の活動の流れは次の通りである。

- (ア) グループ編成
 - 各クラスから新聞に興味をもっている生徒5名を選抜（5名×5クラス=25名）
- (イ) 班編制と紙面の分担
 - 「日之影中新聞」を参考に大まかな紙面構成を確認
 - 書きたい記事を考えさせ、グループを編成
- (ウ) 割り付け（紙面のレイアウト）
 - 新聞作成用の原稿用紙を使用
- (エ) 取材
 - 校内でできる班は授業中（総合的な学習の時間）に取材
 - 地域の紙面を担当した班は休日を活用して取材
- (オ) 記事の作成
 - 取材をもとに記事を作成
 - 文字数は割り付け用紙を使って確認
 - 記事の書き方は（本物の）新聞を参考

- に指導
- (カ) テキストファイルへの入力
 - ソフト「メモ帳」を使って記事をテキストファイルに入力
- (キ) DTPソフト「パーソナル編集長」を用いた編集
 - 生徒が記事を作成中に、ソフトで割り付け
 - 生徒が作成したテキストファイルを集め、コピー、ペースト
- (ク) 見出しの検討
 - ある程度紙面ができた段階で、宮崎県NIE推進協議会（今回は宮崎日日新聞社）に講師を依頼し、記事のチェックと見出しの指導
 - NIE推進協議会に依頼し、新聞各社による取材
- (ケ) 仮印刷と誤字・脱字などの訂正
 - 仮印刷し、全員でチェック（しかし、



資料3：新聞作成の記事（西日本新聞、平成22年10月22日（金）付 24面）



資料4：新聞作成の記事（読売新聞、平成22年10月24日（日）付 33面）



資料5：グループ新聞紙面（文化祭の特集面）



資料6：グループ新聞紙面（1面と8面）



資料7：グループ新聞紙面（3面と6面）

間違いは残る)

(コ) 最終チェック

- 印刷用の原本を最終チェック

(サ) 印刷

- 当初はA3の両面印刷にする予定
- 印刷機がB4までのため、変更（なお、日之影中新聞はプリンターによるカラー印刷）
- 1000部作成

(シ) 発行

- 文化祭前日に全校生徒に配布
- 文化祭当日に体育館受付にて保護者に配布

今年度はグループ新聞を卒業式前にも作成させ、2度発行した。この作成の流れも文化祭前と同様であるが、5名の生徒に作成させた。紙面構成を工夫すれば、少人数によるグループ新聞の作成もできる。

5 成果と課題

(1) 成果

- 体験活動のまとめを新聞形式で作成させることで、対象学年のすべての生徒が新聞作成に関わることができた。
- NIEオリエンテーションを行うことで、多くの生徒が新聞に興味をもつことができた。
- グループ新聞を作成させることで、表現力が高まる。また、実際の新聞が教材となり新聞を読む機会が増える。

(2) 課題

- 職員のNIEへの理解は得られるが、活動への指導を求めることが難しい。
- グループ新聞作成は年々よくなっているが、計画的に行う必要がある。
- 学校全体で計画的にNIEを実践すれば、さらに効果的である。